

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「ものづくり」を通じた教育を念頭におき、全ての教育活動において以下のことを実践し、自律して地域を支え、生徒が誇りをもって卒業する学校をめざす。

1. 生徒一人ひとりの総合的な人間力の充実が図られており、大きく変化する社会の中で自立して力強く生きる生徒が育っている。
2. 自信を持ち、自ら変革を起こせる生徒、自ら新しいことに粘り強く果敢にチャレンジする生徒が育っている。
3. 実践的な教育内容の充実を図るため検定試験合格と各種資格取得に全員が全力で取り組んでいる。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力を育成する学校

- (1) 基礎・基本の学力を定着させ、より専門性の高い技術・技能の習得をめざす。
  - ア 公開授業や研究授業、教材研究や授業アンケート等により授業改善に取り組み、「わかる授業」「考える授業」を展開する。
  - イ 信頼関係に基づいた指導を徹底し、コミュニケーション力の育成を図る。
    - \*生徒向け学校教育自己診断の「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい」肯定率（平成 25 年度 1 年生 66%）を平成 28 年度までに 80%まで引き上げ、これを維持する。
    - \*生徒向け学校教育自己診断の「先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる」肯定率（平成 25 年度 1 年生 71%）を平成 28 年度までに 80%まで引き上げ、これを維持する。
- (2) 各種検定合格や資格取得、各種コンテスト応募や競技会等の出場を積極的に指導する。
  - \*卒業までに 3 つ以上の検定試験合格・資格取得をめざす。

## 2 豊かな心をはぐくむ学校

- (1) 信頼関係を基本とした毅然とした生徒指導により、社会で活躍できる生徒の育成をめざす。
  - ア 学習規律を守る指導を徹底する。
    - \*ベル着（授業開始のチャイムとともに着席）、身だしなみ、言葉づかい、携帯電話等禁止の徹底をする。
  - イ 遅刻防止など、時間を守る指導を徹底する。
  - ウ 挨拶、校内美化、通学時のマナーを守る指導を徹底する。
    - \*平成 28 年度には遅刻生徒数を平成 25 年度の 50%減を目標とする。
    - \*平成 28 年度には再履修生徒数、転退生徒数共に平成 25 年度の 50%減を目標とする。
- (2) 人権教育を推進し、社会人に相応しい人格と態度を養う。
  - ア 発達段階に応じた人権教育と、学年別人権教育の充実を図る。
    - \*生徒向け学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」肯定率（平成 25 年度 1 年生 71%）を平成 28 年度までに 85%まで引き上げ、これを維持する。
- (3) 生徒の自己実現への支援に努める。
  - ア 教育相談体制の充実に向け、分掌・学年・系・教科の連携を深める。
    - \*生徒向け学校教育自己診断の「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」肯定率（平成 25 年度 1 年生 45%）を平成 28 年度に 60%とし、これを維持する。
  - イ 就職率 100%を維持しつつ、離職率の更なる低減を図る。

## 3 安全安心で魅力ある学校

- (1) 学校改革のため組織を再構築する。
- (2) 様々な場面で生徒活動を活性化させる。
  - ア いじめ防止、防災教育で生徒の活動を積極的に取り入れる。
  - イ 学校説明会、体験入学等の行事に積極的に生徒がかかわるよう指導する。
  - ウ 部活動等の活性化を組織的に指導する。
    - \*部活動の参加率を毎年 5%増加させ、平成 28 年度に 65%以上にする。
- (3) 公開授業を継続するとともに、PTA活動や学校協議会等の一層の充実を図る。
  - \*保護者向け学校教育自己診断の「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」（平成 25 年度 49%）を平成 28 年度までに 60%に引き上げ、これを維持する。
  - \*保護者向け学校教育自己診断の「学校では、PTA 活動は活発である」肯定率（平成 25 年度 77%）を維持する。
  - \*保護者向け学校教育自己診断の「学校では、教育情報について、提供の努力をしている」肯定率（平成 25 年度 75%）を維持する。
- (4) 以下のプロジェクトに積極的に生徒がかかわるよう指導する。
  - ア 西工ファンタジープロジェクト
  - イ ホタルプロジェクト
  - ウ 植物工場・屋上庭園・太陽光発電・風力発電プロジェクト
  - エ 大阪府産業教育フェアプロジェクト
  - オ 西淀川ものづくりまつりプロジェクト
  - カ 地元商店会との連携プロジェクト等

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災や地震及び津波が起こった時の対応について知らされていることの肯定率が高く、防災への取組が浸透してきていることが伺える。</li> <li>・保護者からは、資格取得を視野に入れた土日の講習体制や成績を保護者に郵送していることに対する肯定的な意見がある。</li> </ul>	<p>【第 1 回協議会】平成 26 年 7 月 4 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得指導を行うことで、生徒が自ら学び、問題解決する能力がつく。</li> <li>・当番による授業巡視、授業見学週間の実施は良いことである。</li> <li>・クラブ活動を活性化していく必要がある。</li> </ul>

<p>・しかし、服装の乱れと授業中に寝ていることに対する指導を望む意見があり、生活指導体制の徹底が望まれる。</p> <p>・生徒の意見では、担任以外に気軽に相談できる教員が多くはないという意見が多く、教育相談体制の充実や生徒との信頼関係を構築する必要性を感じる。</p>	<p>【第2回協議会】平成26年12月5日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得者数の増加や公務員の合格者数の増加は良いことである。</li> <li>学校教育自己診断の結果は、昨年度に比べると徐々に良い方向に向かっている。</li> </ul> <p>【第3回協議会】平成27年3月4日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校の保護者に就職先を周知することが必要である。</li> <li>資格取得にどのようなメリットがあるのかを生徒に周知することが大切である。</li> <li>動画を取り入れた宣伝用のDVDを作製し、広報に活用するのもいい。</li> </ul>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力を育成する学校	<p>(1) 基礎・基本の学力を定着させ、より専門性の高い技術・技能の習得をめざす。</p> <p>ア 公開授業を実施する。</p> <p>イ 研究授業を実施する。</p> <p>ウ コミュニケーション力の育成を図る。</p> <p>(2) 各種検定、資格取得にチャレンジさせる。</p>	<p>ア 校内向け授業見学週間を実施する。</p> <p>また、校外向け公開授業（保護者・中学校教員・府立学校教員等対象）を全系・全教科で実施する。</p> <p>イ 教員研修の実施</p> <p>府教育センターのパッケージ研修を活用し、特に採用間もない教員の教員研修を実施する。</p> <p>ウ 生徒発表会（課題研究）の実施</p> <p>機械系、電気系、建築都市工学系、工業デザイン系の各系で課題研究発表会を実施する。各発表会には下級生に聞かせる機会を設ける。</p> <p>エ 検定受験や資格取得を積極的にチャレンジさせる。</p>	<p>ア 校外向け公開授業を全系・全教科で複数回実施し、参加者100名以上を目標とする。</p> <p>イ 府教育センター指導主事の指導により教員研修を実施し、授業アンケート等により評価する。</p> <p>ウ 各系で発表会を実施する。</p> <p>発表会に下級生を参加させる。</p> <p>エ 在学中に3つの取得をめざす。</p>	<p>ア 5月中旬に1週間校内の公開授業週間を設けて、授業改善への取り組みを行った。また、土曜日には校外向けの授業公開日とし、保護者等105名の参加を得た。(○)</p> <p>イ 府教育センターのパッケージ研修は実施できなかったが、初任者の公開研究授業を実施し、教育センターの指導主事の指導助言を受けることができた。また、フォローアップ研修では本校教員が研究授業を行い授業力の向上をはかった。そして、カリナビプラザ等で学習指導案を公開することとなった。(○)</p> <p>ウ 全ての系で課題研究の発表大会を開催。デザイン系、建築都市工学系では下級生に参加させることができた。(△)</p> <p>エ 計算技術検定の合格者数は56名増。2級に2名が合格（昨年度0名）した。第二種電気工事に45名（昨年度35名）合格。第一種電気工事に9名合格（昨年度0名）。トレース技能検定では3級の合格率85%、2級1名合格（昨年度0名）。漢字能力検定は2年間実施できなかったが、今年度は27名が受験した。リスニング英語検定は35名（昨年度比14名増）が受験。(◎)</p>
2 豊かな心をはぐくむ学校	<p>(1) 信頼関係を基本とした生徒指導の取り組み</p> <p>ア 学習規律を徹底する。挨拶指導・遅刻防止指導・校内美化指導・通学時のマナー指導を徹底する。</p> <p>イ 発達段階に応じた人権教育と、学年別人権教育の充実、教育相談体制の充実を図る。</p>	<p>ア 学習規律の徹底</p> <p>ベル着、身だしなみ指導、言葉づかい、携帯電話の指導を徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>時間を守る指導の徹底</li> <li>通学時のマナー指導を徹底</li> </ul> <p>イ 学年団ごとの人権HRの計画を人権推進委員会と連携しながら実施する。</p>	<p>ア 遅刻生徒数の30%減を目標とする。(H25年度年間のべ8990名)</p> <p>通学時の自転車の重大事故ゼロを維持する。</p> <p>イ 生徒向け学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(平成25年度1年生71%)を5%引き上げる。</p>	<p>ア 遅刻生徒数は8336人（昨年度8990人）</p> <p>自転車の安全指導講習会の実施や、毎朝の指導により大きな事故はなかった。引き続き、安全指導を継続していく。授業時間中の巡視指導を通年で実施し、ベル着が効果をあげてきている。(○)</p> <p>イ 教育相談室の開設により教育相談体制をスタートさせたところである。引き続き充実を図っていく。(○)</p> <p>「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」は3学年で61%。人権HRの充実を図る必要がある。(△)</p>
3 安全安心で魅力ある学校	<p>(1) 校務分掌等の分担等を精査し、校内組織を再構築する。</p> <p>(2) 生徒活動の活性化</p> <p>ア 学校説明会、体験入学などに積極的に生徒がかかわるよう指導する。</p> <p>イ 部活動の活性化を組織的に支援する。</p> <p>(3) PTA活動の一層の充実を図る。</p> <p>(4) 各種プロジェクトへの積極的な参加を指導する。</p>	<p>ア 校内組織を再構築し、意識改革を図る</p> <p>イ 学校説明会、体験入学などに多数の生徒がかかわるよう指導する。</p> <p>ウ 部活動の加入率、活動状況の向上を図る</p> <p>エ PTA活動を積極的に広報し、参加者を増やす。</p> <p>オ 各種プロジェクトに積極的に参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種ロボット大会に参加する。</li> <li>各種イベントに参加する。</li> <li>各種コンペに参加する。</li> </ul>	<p>ア 改革委員会で校務分掌、校内委員会の再構築をする。</p> <p>イ 学校説明会、体験入学には必ず生徒が参加し、説明などの活動にかかわるよう指導する。</p> <p>ウ 部活動の加入率を50%に向上させる（平成25年度45%）。</p> <p>エ 全てのPTA活動において、前年度の参加者を上回ることを目標とする。</p> <p>オ 昨年を上回る生徒が参加するように指導する。</p>	<p>ア 改革委員会で校務分掌の再構築及び分掌の分担の変更等を行った。(○)</p> <p>イ 学校説明会を12月にも実施。昨年度比2倍の保護者、中学生の参加があった。体験入学では本校生徒が積極的に関わった。出前授業3回実施。(○)</p> <p>ウ 部活動加入率は49%。引き続き、分掌や学年と連携し、合格者説明会等で加入を促していく。(△)</p> <p>エ PTA活動を積極的に広報することで、緑化活動や文化祭活動等の参加者数が前年度比35%程度増加した。(○)</p> <p>オ 近畿地区ロボット相撲大会に参加。来年度は本校開催となるので、生徒の参加意欲は高まっている。また、昨年度には参加できなかったエコデンレースに参加することができた。産業教育フェア、西淀川ものづくりまつり、地元商店街の夜まつり等においても、昨年度より多くの生徒が参加することができた。また、初めて参加した建設技術展の橋梁模型製作コンテストで人気作品賞を受賞。高校生ものづくりコンテストの旋盤部門では大阪大会優勝、近畿大会4位の成績を収めた。(◎)</p>